AKG
by HARMAN

ワイヤレスシステム

WMS470

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

2012年11月版

安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、
重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義の
ように「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

⚠ 警告

■ 水に入れたり、ぬらさないでください。火災や感電の原因になります。

■ AC100V 50/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。

■ 必ず専用のACアダプターを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。また、ACアダプターは他の機器には使用しないでください。

■ ACアダプターのケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因になります。ACアダプターのケーブルが傷んだら(断線や芯線の露出など)、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。

■ 送信機の充電には必ず専用の充電器を使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。

■ 付近にペースメーカーを装着されている方がいる場合は、装着部から22cm以上離して使用してください。電波の影響によってペースメーカーが誤作動する恐れがあります。

■ 医療機関内や航空機内では使用しないでください。電波の影響によって機器が誤作動し、事故の原因になる恐れがあります。

■ 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。

■ 万一、落としたり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。

■ 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。

■ 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

■ 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

■ 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。

■ 以下のような場所に設置しないでください。
- 直射日光の当たる場所
- 温度の特に高い場所、または低い場所
- 湿気の多い場所
- ほこりの多い場所
- 振動の多い場所

■ 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかり固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。

■ 配線は、ACアダプターを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。ACアダプターを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。

■ 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。

■ 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

■ 電源プラグを抜くときに、ACアダプターのケーブルを引っ張らないでください。ケーブルが傷つき火災や感電の原因となります。

■ ご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ 指定以外の電池は使用しないでください。また、半年以上使用しないときは送信機から電池を取り外してください。電池の破裂、液漏れによるけがや火災の原因となります。

■ 送信機に電池を挿入するときは極性の向きに注意し、機器の表示通りに正しく入れてください。間違えると、液漏れによるけがや火災の原因となります。

使用上のご注意

■ 送信機は、電波法に基づく特定小電力無線局として技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- 送信機を分解/改造すること。
- 送信機に貼ってある証明番号が印刷されたラベルをはがすこと。

■ 本機は日本の電波法に準拠して製造された国内専用モデルです。海外で使用すると各国の法律により処罰されることがあります。

■ 本機は障害物等で電波が遮られた場合や他の無線機器が発する電波の影響を受けた場合に、音が途切れることがあります。トラブルを防ぐため、受信機は以下のような場所に設置してください。それでも改善しない場合は、使用場所を変更してください。
- ステージ袖など、送信機を持つ人が見通せる場所に設置してください。
- 壁や障害物などからは1.5m以上離して設置してください。
- 受信機と送信機の距離は少なくとも3m以上あけてください。5mが最適な距離です。

■ 本機で、受信機と送信機が通信可能な距離はおおよそ70mです。通信可能な距離は見通しの良い場所で使用した場合の値で、以下のような環境では距離が短くなる可能性があります。
- 受信機や送信機の間に障害物がある場所で使用した場合。
- 受信機や送信機を直接地面や床に置いて使用した場合。
- 雨天時の屋外で使用した場合。
- 他の無線機器が使用されている場所で使用した場合。

■ 高電圧送電ケーブル、携帯電話、ブラウン管、テープ・レコーダ等の強電磁界付近への設置は避けてください。外部からの誘導電界は、音声回路に悪影響を与えます。

目 次

安全上のご注意 …… P.02

使用上のご注意 …… P.03

目次 …… P.03

梱包内容の確認 …… P.04

ラックマウント …… P.05

各部の名称と機能

受信機 前面パネル …… P.06
受信機 背面パネル …… P.07
ハンドヘルド型送信機 …… P.08
ボディーパック型送信機 …… P.09

受信機液晶画面の表示項目と設定方法

ロックモード …… P.10
メニューについて …… P.10
受信周波数の表示 …… P.11
名称の設定 …… P.11
送信機の電池の種類の設定 …… P.12
ハンドヘルド型送信機の入力感度の設定 …… P.13
周波数自動検索機 …… P.14
AKG独自の周波数表示 …… P.14
ステータス設定 …… P.15
リハーサル機能 …… P.16
スケルチ設定 …… P.17
パイロットトーン設定 …… P.17
初期化 …… P.17
システム情報の確認 …… P.17

セットアップ …… P.18

トラブルシューティング …… P.22

仕様 …… P.23

梱包内容の確認

WMS470は、用途に応じて選択できる4種類のセット品を用意しています。また、受信機と送信機は単品でも販売しています。以下に、それぞれの商品の梱包内容を記載しますので、パッケージを確認してください。

■セット品

WMS470 VOCAL SET C5
- 受信機（SR470）
- C5ヘッド・ハンドヘルド型送信機（HT470 C5）
- プレゼンス・ブースター（出荷時装着済）
- マイクホルダー
- ラックマウント金具大
- ラックマウント金具小
- リンク金具
- 単三形アルカリ乾電池
- 電源アダプター
- 1/4波長アンテナ×2
- アンテナホールキャップ×2
- プラスチックプレート
- 和文取扱説明書

WMS470 VOCAL SET D5
- 受信機（SR470）
- D5ヘッド・ハンドヘルド型送信機（HT470 D5）
- スタンドアダプター
- ラックマウント金具大
- ラックマウント金具小
- リンク金具
- 単三形アルカリ乾電池
- 電源アダプター
- 1/4波長アンテナ×2
- アンテナホールキャップ×2
- プラスチックプレート
- 和文取扱説明書

WMS470 INSTRUMENTAL SET
- 受信機（SR470）
- ボディーパック型送信機（PT470）
- 楽器用接続ケーブル（MKG L）
- ラックマウント金具大
- ラックマウント金具小
- リンク金具
- 単三形アルカリ乾電池
- 電源アダプター
- 1/4波長アンテナ×2
- ベルトクリップ
- アンテナホールキャップ×2
- ターミナル・コネクター×2
- 和文取扱説明書

WMS470 PRESENTER
- 受信機（SR470）
- ボディーパック型送信機（PT470）
- ラックマウント金具大
- ラックマウント金具小
- リンク金具
- 単三形アルカリ乾電池
- 電源アダプター
- 1/4波長アンテナ×2
- ベルトクリップ
- アンテナホールキャップ×2
- ターミナル・コネクター×2
- ラベリア・マイクロホン（CK99 L）
- CK99 L用ウインドスクリーン
- CK99 L用クリップ
- ヘッドウォーン・マイクロホン（C555 L）
- C555 L用ウインドスクリーン（W444）
- C555 L用モイスチャーシールド×3
- 和文取扱説明書

■受信機・送信機の単品

SR470
- 受信機
- ラックマウント金具大
- ラックマウント金具小
- リンク金具
- 電源アダプター
- 1/4波長アンテナ×2
- アンテナホールキャップ×2
- 和文取扱説明書

HT470 C5
- C5ヘッド・ハンドヘルド型送信機
- プレゼンス・ブースター（出荷時装着済）
- マイクホルダー
- 単三形アルカリ乾電池
- プラスチックプレート
- 和文取扱説明書

HT470 D5
- D5ヘッド・ハンドヘルド型送信機
- マイクホルダー
- 単三形アルカリ乾電池
- プラスチックプレート
- 和文取扱説明書

PT470
- ボディーパック型送信機
- 楽器用接続ケーブル（MKG L）
- 単三形アルカリ乾電池
- ターミナル・コネクター×2
- 和文取扱説明書

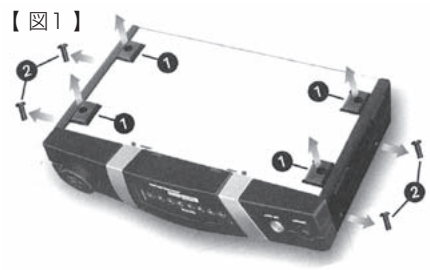
ラックマウント

1Uスペースに受信機1台をラックマウントする場合

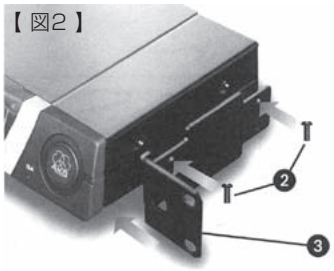
1）受信機底面にある4箇所のゴム足①を取り外します【図1】。

2）受信機本体の両側面にあるネジ②を取り外し、付属のラックマウント金具小③、ラックマウント金具大④を受信機本体の両側面に、先程外したネジ②を使って固定します【図2、図3】。

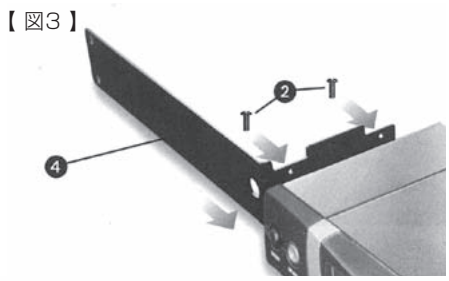
【図1】



【図2】



【図3】



1Uスペースに受信機2台をラックマウントする場合

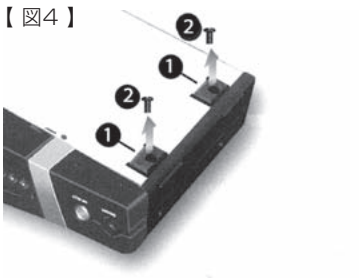
1）2台の受信機の底面にあるゴム足①と、ゴム足を固定しているネジ②を取り外します【図4】。

2）付属の連結金具③を用意します。一方の受信機のゴム足を外した箇所に本体側面から連結金具③を差し込み、ネジ②で固定します【図5】。

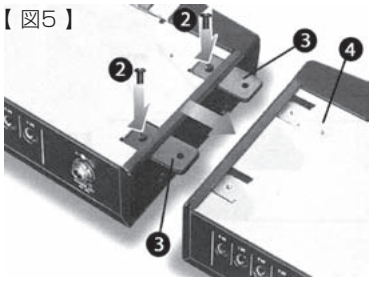
3）ゴム足を取り外してあるもう一台の受信機④を連結金具に差し込み、ゴム足を固定していたネジ②で固定します【図6】。

4）ラックマウント金具小⑤を用意します。ラックマウント金具小⑤を取り付ける側面のネジ⑥を一度取り外し、そのネジ⑥を使ってラックマウント金具小⑤を固定します【図7】。

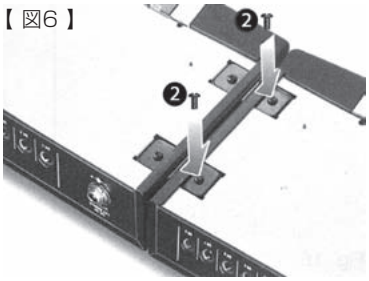
【図4】



【図5】



【図6】

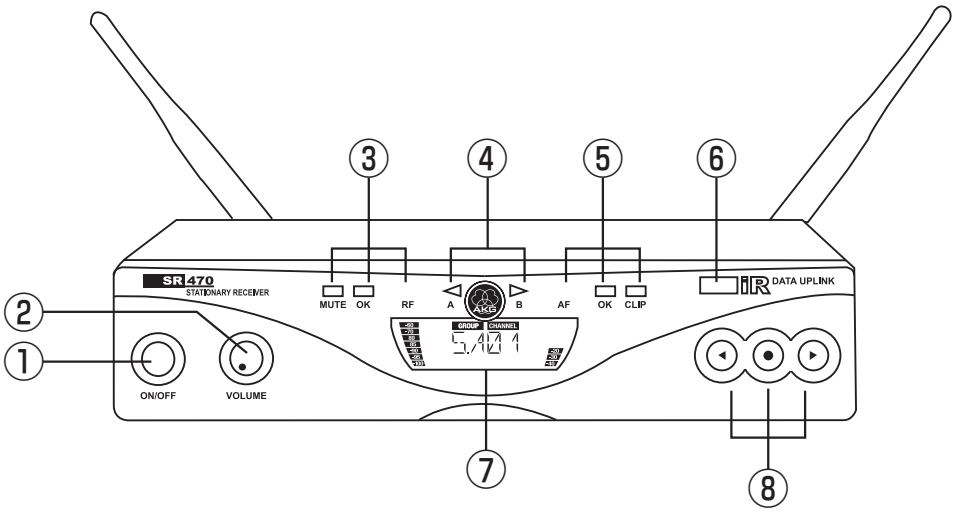


【図7】

受信機の寸法以上に奥行きのあるラックに設置する場合は、オプションのフロントパネルマウントキットを使用して、アンテナをラックマウント金具前面に取り付けてください。

各部の名称と機能

受信機 前面パネル



① ON/OFF【電源ON/OFFスイッチ】

② VOLUME【出力レベルコントロールつまみ】
受信機の出力レベルを調整します。押し込み式のつまみです。使用しない時は、つまみを押し込む事で誤操作を防止できます。調整可能な範囲は0～30dBです。

③RF信号の受信状況表示LED
RF MUTE LED(赤色に点灯)：RF信号を受信していない時に点灯します。このときAF(音声)信号の出力は自動的にミュートされます。
RF OK LED(緑色に点灯)：RF信号を十分なレベルで受信している時に点灯します。

④ A/B LED【ダイバーシティー A/B LED】
ダイバーシティー回路により、AまたはBのどちらのアンテナが受信した信号が選択されているかを示します。

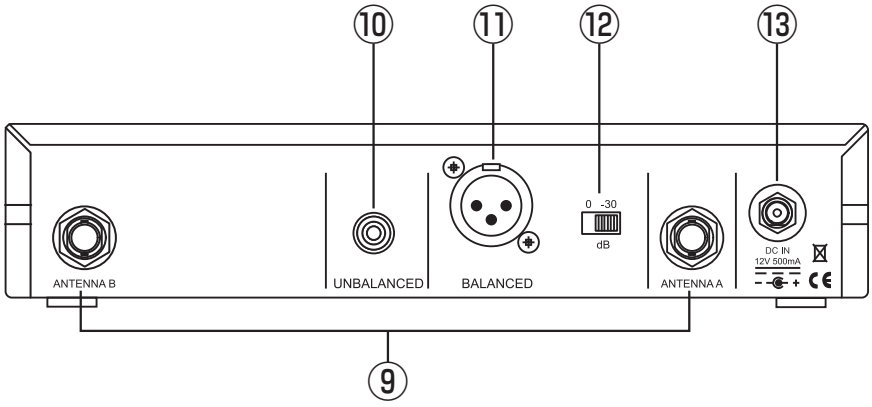
⑤ AF(音声)信号の受信状況表示LED
AF OK LED(緑色に点灯)：受信したAF(音声)信号のレベルが−40dB～+3dBのときに点灯します。
AF CLIP LED(赤色に点灯)：受信したAF(音声)信号のレベルが3dBを超えると点灯し、AF(音声)信号がクリップしていることを示します。
※AF CLIP LED が頻繁に点灯する場合は、入力感度(ゲイン)の調整が必要です。ハンドヘルド型送信機の入力感度の調整は受信機で行います(13ページ参照)。ボディーパック型送信機の入力感度の調整は電池ボックス内のゲインコントロールつまみで行います(9ページ参照)。

⑥ IR【赤外線ポート】
送信機へのデータ転送に使用する赤外線ポートです。周波数やゲインなどの設定を送信します。赤外線の送信範囲は上下左右10度以内、距離は20cm以内です。
※送信機の周波数設定およびハンドヘルド型送信機のゲイン設定は、受信機で設定した情報を赤外線通信を利用して送信機に転送します。送信機本体で設定することはできませんのでご注意ください。

⑦ 液晶画面
バックライト付きの液晶画面です。
画面左(RF信号レベルメーター)：RF信号の受信強度を、−60～−100dBの範囲で示します。
画面右(AF信号レベルメーター)：受信したAF(音声)信号のレベルを、−40dB～+3dBの範囲で示します。
画面中央(メニュー、パラメーター表示)：メニュータイトルやパラメーターなどを表示します。
※画面中央部の表示内容の詳細については10ページ「メニューについて」をご覧ください。
※出荷時のバックライトは「常時緑色」に点灯するよう設定されています。エラー発生時は「赤色」に点灯するよう設定することもできます。詳しくは15ページ「ステータス設定」をご覧ください。

⑧ パラメーター選択ボタン
◀▶：メニューやパラメーターの変更に使用します。
●：メニューやパラメーターの呼び出し、決定に使用します。

受信機 背面パネル



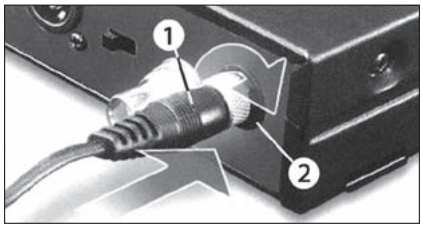
⑨ ANTENNA A/ANTENNA B【アンテナ入力端子】
付属のアンテナを接続するBNC端子です。

⑩ UNBALANCED【アンバランス出力端子】
アンバランス仕様標準フォーンジャック(TS)の出力端子です。ギターアンプやベースアンプ等への接続に使用します。

⑪ BALANCED【バランス出力端子】
バランス仕様XLR3ピンの出力端子です。ミキサーのマイク入力などに接続します。

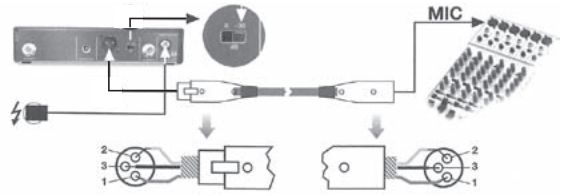
⑫ 0/−30dB【出力レベル切替スイッチ】
バランス出力端子⑪の出力レベルを、接続する機器の入力レベルに応じて切り替えます。アンバランス出力端子⑩の出力レベルには影響しません。
- −30dB=マイクレベル
- 0dB=ラインレベル

⑬ DC IN【電源入力端子】
付属の電源アダプターを接続します。図のように付属の電源アダプターのプラグ①を差し込み、外れ止めリング②を時計回りに回すとプラグがロックされます。外す時はリングを反時計回りに回します。

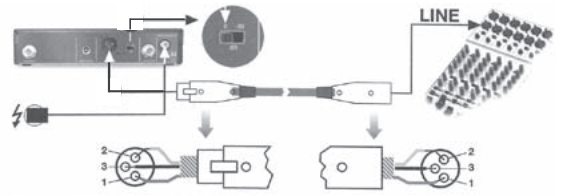


外部機器との接続方法

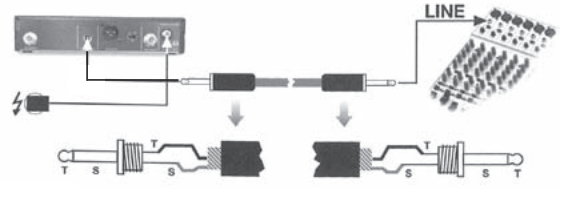
バランス出力端子を使用した接続例
【XLR3ピン→マイク入力】
※出力レベル切替スイッチ⑫は[−30dB]にセットします。



【XLR3ピン〜ライン入力】
※出力レベル切替スイッチ⑫は[0dB]にセットします。



アンバランス出力端子を使用した接続例
【標準フォーンジャック〜ライン入力】



ハンドヘルド型送信機

① **マイクヘッド**
D5（ダイナミック型、スーパーカーディオイド）またはC5（コンデンサー型、カーディオイド）のマイクヘッドです。

C5マイクヘッドについて

- 5～9kHzの感度を5dB上げることで明瞭な音質が得られるプレゼンスブースターが装着されています（取り外し可）。

② **IR【赤外線ポート】**
受信機からのデータを受信するための赤外線ポートです。赤外線の受信範囲は上下左右10度以内、距離は20cm以内です。

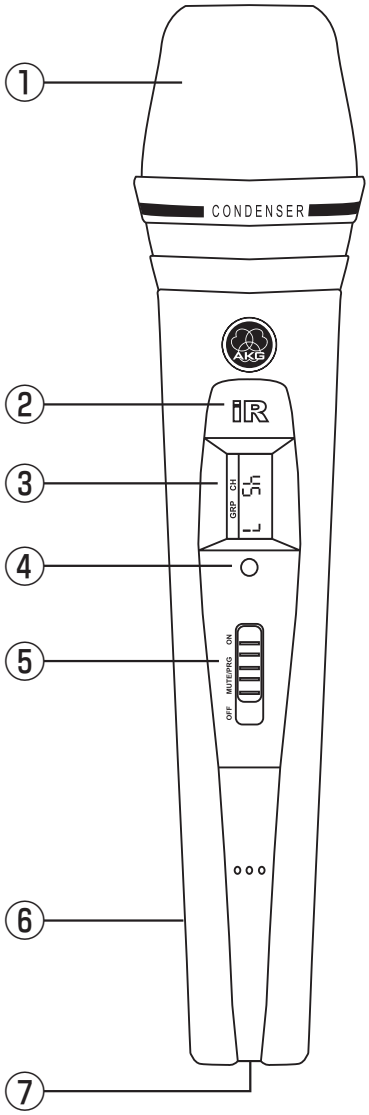
③ **液晶画面**
運用に必要な情報を表示します。
※詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」をご覧ください。

④ **LED【動作状況表示LED】**
送信機の動作状況を示します。
※詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」をご覧ください。

⑤ **OFF-MUTE/PRG-ON【スライドスイッチ】**
電源、ミュート、赤外線受信の動作を選択します。
※詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」をご覧ください。

⑥ **電池ボックス**
付属の単三形アルカリ乾電池1本を装着します。装着する際は、極性に注意してください。市販のニッケル水素充電池（2100mAh）やリチウム乾電池も使用できます。

⑦ **充電接点**
オプションの充電器［CU400］を使うときに使用します。



スライドスイッチ操作詳細

スライドスイッチを OFF から MUTE/PRG に移動

LED　…… 消灯
液晶画面… 最初に機種名と設定周波数を表示。その後ゲイン設定［GAIn. HI/GAIn. Lo］と、赤外線通信待ちうけ状態であることを示す［ProG.Ir］、グループ／チャンネル名を交互に表示します。
電波状態… 赤外線通信待ち受け状態です。電源はONですが、RF信号·AF（音声）信号ともにミュートされています。

スライドスイッチを MUTE/PRG から ON に移動

LED　…… 緑色点灯（電池残量が1時間以下の場合は赤色に点灯）
液晶画面… 電池の種類を示すアルファベット（アルカリ乾電池：L、ニッケル水素充電池：H、リチウム乾電池：F）と電池残量を常時表示します。
電波状態… RF信号·AF（音声）信号ともに送信され、運用中の状態です。

スライドスイッチを ON から MUTE/PRG に移動

LED　…… 赤色点灯
液晶画面… ゲイン設定［GAIn. HI/GAIn. Lo］と、赤外線通信待ちうけ状態であることを示す［ProG.Ir］、グループ／チャンネル名を交互に表示します。
電波状態… 電源はONで、RF信号も発信していますが、音声信号はミュートしています。

スライドスイッチを MUTE/PRG から OFF に移動

LED　…… 消灯
液晶画面… 「oFF」を表示した後消灯します。
電波状態… 電源がOFFのため、電波は発信されません。

※警告メッセージがある場合は、LEDが赤色に点滅します。

ボディーパック型送信機

① LED【動作状況表示LED】
送信機の動作状況を示します。
※詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」でご確認ください。

② OFF-MUTE/PRG-ON【スライドスイッチ】
電源、ミュート、赤外線受信の動作を選択します。
※詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」でご確認ください。

③ 液晶画面
運用に必要な情報を表示します。
※詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」でご確認ください。

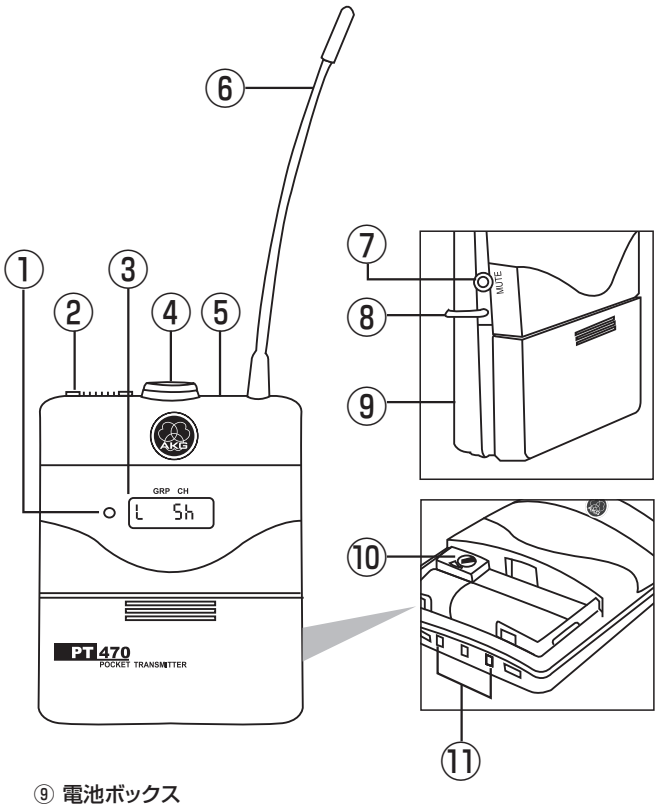
④ 入力端子
ミニXLR3ピンの入力端子です。マイク/ライン入力いずれも入力可能です。楽器用接続ケーブルやAKGボディーパック型送信機用マイクロホンを接続します。

⑤ IR【赤外線ポート】
受信機からのデータを受信するための赤外線ポートです。赤外線の受信範囲は上下左右10度以内、距離は20cm以内です。

⑥ アンテナ
電波を送信するための1/4波長ホイップアンテナです(脱着不可)。

⑦ MUTE【ミュートジャック】
付属のターミナル·コネクターを差し込みます。スライドスイッチが電気的にロックされ、スライドスイッチによる電源OFFやミュートができなくなります。ミュートジャックからターミナル·コネクターを取り外すとロックが解除されます。
※別売りアクセサリーのリモート·ミュートスイッチを接続することもできます。

⑧ ベルトクリップ
ベルトやポケットに装着する場合に使用します。



⑨ 電池ボックス
付属の単三形アルカリ乾電池1本を装着します。装着する際は、極性に注意してください。市販のニッケル水素充電池(2100mAh)やリチウム乾電池も使用できます。

⑩ ゲインコントロールつまみ
電池ボックス⑨内部にあり、0~20dBの間で入力感度(ゲイン)を調整します。調整には電池ボックスの蓋にあるツメを使用することができます。

⑪ 充電接点
オプションの充電器[CU400]を使うときに使用します。

スライドスイッチ操作詳細

スライドスイッチを OFF から MUTE/PRG に移動

LED …… 消灯
液晶画面… 最初に機種名と設定周波数を表示。その後、赤外線通信待ちうけ状態であることを示す[ProG.Ir]と、グループ/チャンネル名を交互に表示します。
電波状態… 赤外線通信待ち受け状態です。電源はONですが、RF信号·AF(音声)信号ともにミュートされています。

スライドスイッチを ON から MUTE/PRG に移動

LED …… 赤色点灯
液晶画面… 赤外線通信待ちうけ状態であることを示す[ProG.Ir]と、グループ/チャンネル名を交互に表示します。
電波状態… 電源はONで、RF信号も発信していますが、音声信号はミュートしています。

スライドスイッチを MUTE/PRG から ON に移動

LED …… 緑色点灯(電池残量が1時間以下の場合は赤色に点灯)
液晶画面… 電池の種類を示すアルファベット(アルカリ乾電池 : L、ニッケル水素充電池 : H、リチウム乾電池 : F)と電池残量を常時表示します。
電波状態… RF信号·AF(音声)信号ともに送信され、運用中の状態です。

スライドスイッチを MUTE/PRG から OFF に移動

LED …… 消灯
液晶画面… 「oFF」を表示した後消灯します。
電波状態… 電源がOFFのため、電波は発信されません。

※警告メッセージがある場合は、LEDが赤色に点滅します。

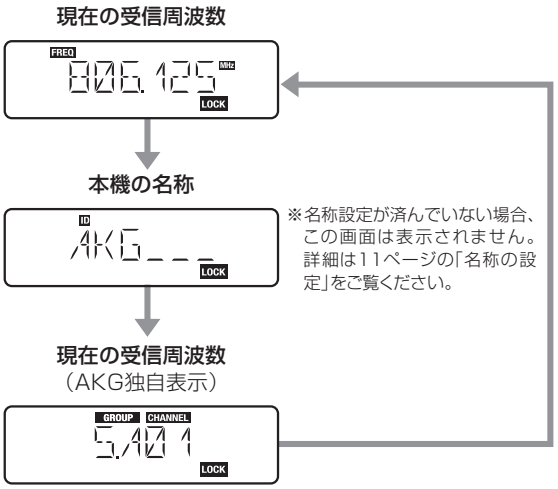
受信機液晶画面の表示項目と設定方法

ロックモード

受信機の電源をONにすると、液晶画面右下に LOCK のアイコンが表示されます。この LOCK は本機がロックモードであることを示し、この時◀▶ボタンを押しても右の図の順で画面が表示されるだけで設定の編集は一切行う事ができません。

ただし、あらかじめ周波数の設定が済んでいて、送信機と受信機の周波数設定が一致していれば、ロックモードでもそのままワイヤレスシステムとして使用することができます。使用するたびに周波数を設定しなおす必要のない用途では、この機能を利用して送信機·受信機の電源ON/OFFだけで誤操作の心配なくワイヤレスシステムを運用することができます。

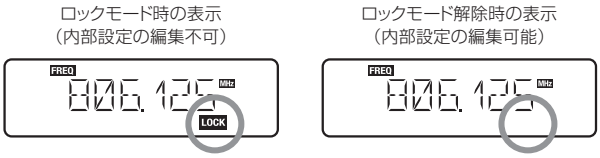
誤操作を防ぐため、本体内部の設定を編集する時のみロックモードを解除し、設定が完了したら再びロックモードに設定することをお勧めします。ロックモードの設定／解除の方法は以下の通りです。



ロックモードの設定／解除

受信機前面パネルの◉ボタンを長押しすることでロックモードの設定／解除が行えます。

※ロックモードを解除した状態で、長時間放置すると再びロックモードになります。その際は再度ロックモードを解除してください。



メニューについて

受信機の液晶画面で設定できる項目は、図のように7種類のメインメニューと7種類のサブメニューで構成されています。
ロックモード解除後◀ボタンまたは▶ボタンを押すと、画面には本機で設定できる様々なメニューのタイトルが順に表示されます。設定を編集する時は、目的のメニュータイトルを画面に表示させた後、◉ボタンで選択·決定します。その後の操作方法やメニューの詳細につきましては該当の項目をご確認ください。

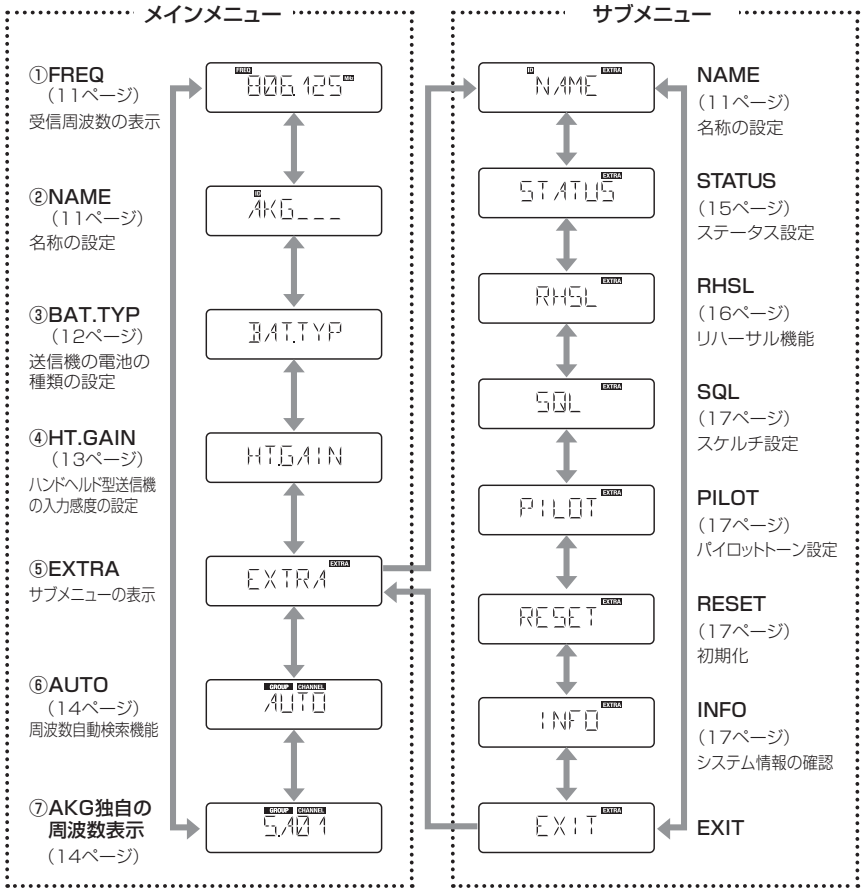
<②NAME>画面について

名称を設定していないとこの<②NAME>画面は表示されません。

※工場出荷状態では名称が設定されていませんのでご注意ください。

※初めて設定する時は、<⑤EXTRA>→<NAME>から設定を行ってください(11ページ参照)。

※設定後は、メインメニューに設定した名称が表示され、メインメニュー<②NAME>から名称の編集が行えます。



受信周波数の表示 <FREQ>

受信機の現在の受信周波数を表示します。周波数を表示中に◉ボタンで選択し、◀▶ボタンを押すことで周波数を変更できますが、空いているグループ/チャンネルを自動で検索する周波数自動検索機能を使用したほうが、確実で素早い設定が可能です。通常は周波数自動検索機能をお使いになることをお勧めします。周波数自動検索機能を使用したセットアップの方法は、18ページ～の「セットアップ」をご覧ください。

名称の設定 <NAME>

受信機には、英数字で最大6文字の名称を登録することができます。個別認識がしやすく、複数システムを同時運用するときの混乱を防ぎます。初めて名称を設定する方法は以下の通りです。

※工場出荷状態では、名称が登録されていません。そのため、初回起動時や名称未登録の時にメインメニューをスクロールしてもメインメニュー<②NAME>は表示されません（10ページ「メニューについて」参照）。初めて名称を設定する際には、<⑤EXTRA>→<NAME>から設定を開始してください。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<⑤EXTRA>を選択し、◉ボタンで決定します【図1】。

② <NAME>が表示されるので、◉ボタンで決定します【図2】。

③ 左端の文字が入力可能になります。◀▶ボタンを使って必要な文字を選択してください。選択後◉ボタンを押すと入力され、次の文字が入力可能になります。アルファベット26文字と0～9の数字が使用できます【図3】【図4】。

④ 全ての文字を入力し終えると<SAVE-Y>が表示されますので、◉ボタンで決定すると設定が保存されます【図5】。

※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<SAVE-N>を選択し◉ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<DELETE>を選択し◉ボタンで決定すると、入力データは削除され工場出荷時の名称が登録されていない状態に戻ります。

一度登録を済ませると、メインメニュー<②NAME>が表示されるようになり、次回からはメインメニュー<②NAME>から簡単に名称の編集が行えます。

【図1】

【図2】

【図3】

【図4】

【図5】

送信機の電池の種類の設定 <BAT.TYP>

送信機の電池の種類を受信機から設定できます。設定することで、送信機の電池残量をより正確に表示させることが可能です。設定方法は以下の通りです。

※単三形アルカリ乾電池、単三形ニッケル水素充電池、単三形リチウム乾電池以外の電池は使用しないでください。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<③BAT.TYP>を選択し、●ボタンで決定します【図1】。

② ◀▶ボタンで以下の中から設定したい項目を選択し、●ボタンで決定します。

AUTO
自動で電池の種類を識別します。残量が少ない電池や古い電池を使用している場合は、電池残量が正しく表示されない場合があります。そのときは、以下の項目から電池の種類を選択してください【図2】。

NIMH
単三形ニッケル水素充電池を使用している場合はこの項目を選択してください【図3】。

LR6
単三形アルカリ乾電池を使用している場合はこの項目を選択してください【図4】。

FR6
単三形リチウム乾電池を使用している場合はこの項目を選択してください【図5】。

※単三形リチウム乾電池は1本で最大14時間の使用が可能ですが、送信機の液晶画面では10時間までの電池残量しか表示できないため、10時間以上の電池残量がある場合でも表示は10時間になります。

EXIT
メインメニューに戻ります【図6】。

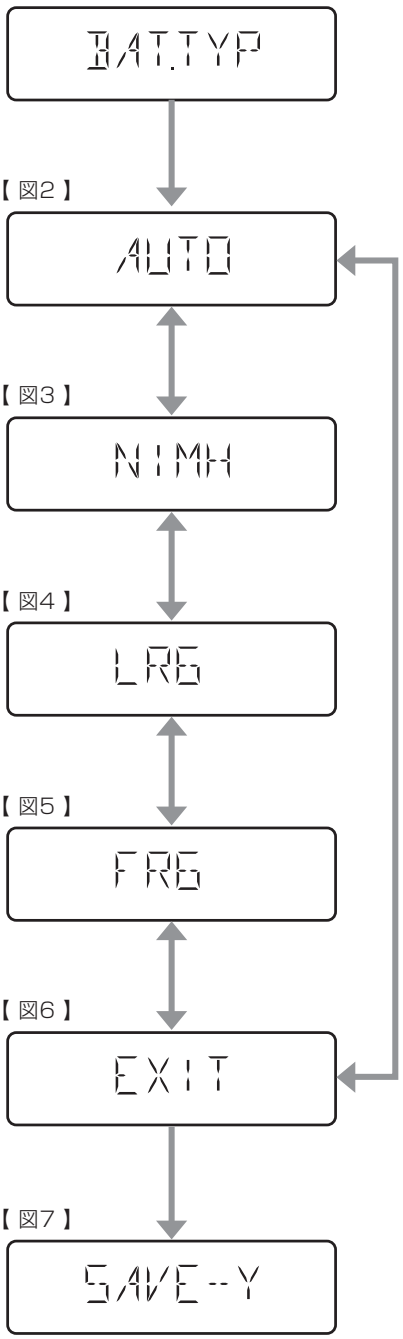
③ <SAVE-Y>が表示されますので、●ボタンで決定すると設定が保存されます【図7】。

※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<SAVE-N>を選択し●ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

④ <PRG IR>が表示されますので、受信機と送信機を赤外線リンク機能を使ってリンクさせてください（21ページの「⑦ 赤外線で受信機と送信機をリンクさせる」を参照）。

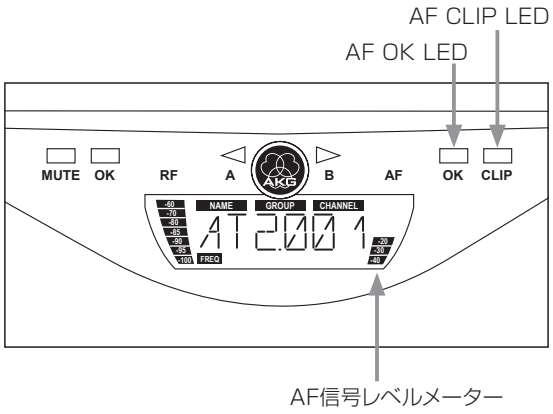
※設定完了後、登録された（認識された）電池の種類に応じて、スライドスイッチがONになっている送信機の液晶画面には以下のような表示が現れます。
ニッケル水素充電池の場合：「H 3h」
アルカリ乾電池の場合：「L 3h」
リチウム乾電池の場合：「F 3h」
※3時間以上4時間未満の電池残量がある場合。

【図1】



ハンドヘルド型送信機の入力感度の設定 <HT.GAIN>

受信機の液晶画面右にあるAF信号レベルメーターがほとんど点灯しない場合や、AF CLIP LEDが赤く点灯して送信機からの音声信号が歪む場合は「入力感度（ゲイン）」を調整する必要があります。入力感度（ゲイン）の設定が正しく行われていないと、受信機のフロントパネル左側に設置されている出力レベルコントロールつまみを調整しても最良の音質は得られません。



ハンドヘルド型送信機の入力感度の設定方法は以下の通りです。工事出荷時、送信機の入力感度は“LO=低”に設定されています。声量が少ない場合など、感度がより必要な場合、“HI=高”に切り替える必要があります。

※ハンドヘルド型送信機の入力感度は、ハンドヘルド型送信機本体では変更ができません。受信機で設定し、赤外線リンク機能を利用して送信機に転送します。
※ボディーパック型送信機の入力感度は、電池ボックス内のゲインコントロールつまみで行います（9ページ参照）。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<④HT.GAIN>を選択し、●ボタンで決定します【図1】。

② ◀▶ボタンで<HTG HI>（感度:高）または<HTG LO>（感度:低）を選択し、●ボタンで決定します【図2】。

③ <SAVE-Y>が表示されますので、●ボタンで決定すると設定が保存されます【図3】。

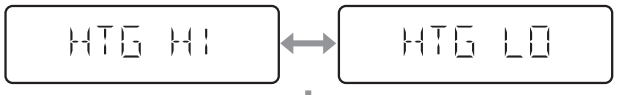
※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<SAVE-N>を選択し●ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

④ <PRG IR>が表示されますので、受信機と送信機を赤外線リンク機能を使ってリンクさせてください（21ページの「⑦ 赤外線で受信機と送信機をリンクさせる」を参照）。

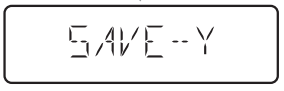
※入力感度を<HI=高>に設定している状態で“AF CLIP LED”が頻繁に点灯する場合は設定が高すぎる可能性があります。<LO=低>に設定し、音量は受信機前面の<出力レベルコントロールつまみ>で調整してください。また送信機の感度が<LO=低>に設定されているにもかかわらず受信機の“AF CLIP LED”が点灯し続け、音声が歪む場合はマイクロホンを口から遠ざけてください。

【図1】

【図2】



【図3】



周波数自動検索機能 <AUTO>

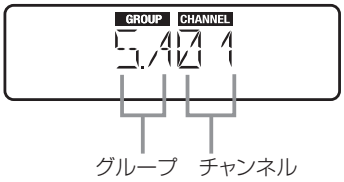
本システムは、使用可能な周波数を自動で検索する周波数自動検索機能を搭載しています。周波数自動検索機能を使用したセットアップの方法は、18ページ～の「セットアップ」をご覧ください。

AKG独自の周波数表示

本システムには「806.125」のように数字（MHz）による周波数表示とは別に、AKG独自の周波数表示を採用しています。AKG独自の周波数表示では、右下表示例のように、アルファベットと数字を組み合わせて「グループ」「チャンネル」の2種類の情報を表示します。それぞれが示す内容は、下記の「AKG独自周波数表示」表に対応しており、同一「グループ」内のチャンネルは同時使用が可能です。この表示方法は、「周波数自動検索機能」に使用するためのもので、この機能により、複数のシステムを同時に使用する場合でもセットアップを迅速かつ正確に行うことができます。

グループ：同時使用可能なチャンネルの組み合わせを「5.A」～「5.8」のグループ名で示します。

チャンネル：上記"グループ"に含まれるチャンネルを「01」～「06」のチャンネル番号で示します。



AKG独自の周波数を表示中に◉ボタンで選択し、◀▶ボタンを押すことでグループやチャンネルを変更することができますが、空いているグループやチャンネルを自動で検索する周波数自動検索機能を使用したほうが、確実で素早い設定が可能です。通常は周波数自動検索機能をお使いになることをお勧めします（周波数自動検索機能を使用したセットアップの方法は、18ページ～の「セットアップ」をご覧ください。）。

AKG独自の周波数表示

		グループ名					
		5.A	5.0	5.2	5.4	5.6	5.8
チャンネル番号	01	806,125	806,125	806,125	806,125	806,125	806,125
	02	809,625	806,500	806,500	806,500	807,500	806,875
	03	809,250	808,250	808,250	808,250	809,250	809,250
	04	807,000	809,625	809,625	809,750	809,625	809,625
	05	—	807,000	807,750	807,750	806,750	807,500
	06	—	809,000	808,875	808,875	808,750	808,000

ステータス設定 <STATUS>

受信機は、運用中に異常を検知した際、液晶画面のバックライトの色を変えてエラー情報を表示させることができます。正常時は「緑色」の液晶画面のバックライトが、異常時には「赤色」に変わります。表示可能なエラーは以下の3種類で、表示・非表示の設定は個別に行うことができます。

LAW.BAT : 送信機の電池残量が1時間以下の時

AF CLIP : AF(音声)信号がクリップした時

RF.LOW : RF信号が極めて低い時

エラー情報の表示・非表示の設定方法は以下の通りです。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<⑤EXTRA>を選択し、●ボタンで決定します【図1】。

② ◀▶ボタンでサブメニューから<STATUS>を選択し、●ボタンで決定します【図2】。

③ <BAT.ON>または<BAT.OFF>が表示されます。送信機の電池残量が1時間以下の時にバックライトを「赤色」に変える場合は<BAT.ON>を、変えない場合は<BAT.OFF>を◀▶ボタンを使って選択し、●ボタンで決定します【図3】。

④ <AF.ON>または<AF.OFF>が表示されます。AF(音声)信号がクリップした時にバックライトを「赤色」に変える場合は<AF.ON>を、変えない場合は<AF.OFF>を◀▶ボタンを使って選択し、●ボタンで決定します【図4】。

⑤ <RF.ON>または<RF.OFF>が表示されます。RF信号が極めて低い時にバックライトを「赤色」に変える場合は<RF.ON>を、変えない場合は<RF.OFF>を◀▶ボタンを使って選択し、●ボタンで決定します【図5】。

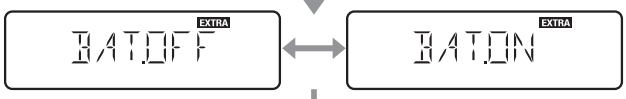
⑥ <SAVE-Y>が表示されますので、●ボタンで決定すると設定が保存されます【図6】。

※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<SAVE-N>を選択し●ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

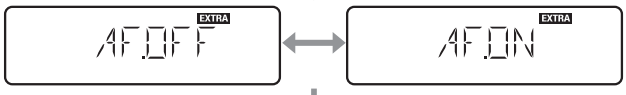
【図1】

【図2】

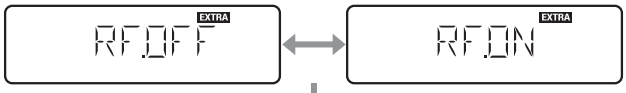
【図3】



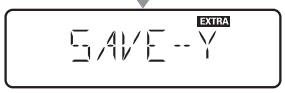
【図4】



【図5】



【図6】



リハーサル機能 <RHSL>

電波(RF信号)のドロップアウトを記録･確認できる機能です。リハーサル時に本機能を利用することで電波のデッドポイントを確認することができます。内部メモリーの記憶容量により、最大16分間(※)もしくは6回(※)のドロップアウトを確認した時点で記録は終了となります。

※記録できる時間や回数は電波状況などによって異なりますのでご注意ください。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<⑤EXTRA>を選択し、◉ボタンで決定します【図1】。

② ◀▶ボタンでサブメニューから<RHSL>を選択し、◉ボタンで決定します【図2】。

③ <START>が表示されますので、もう一度◉ボタンを押すとリハーサル機能が始まり、画面には<RECORD>が表示されます【図3】【図4】。

④ 16分経過後、もしくは電波のドロップアウトが6回以上確認できた場合、<OVFL>と表示され、リハーサル機能が停止します【図5】。

※<OVFL>は内部メモリーがいっぱいになってしまったことを表しています。

※電波状況などによっては、記録時間が16分以下、もしくは記録回数6回以下でも機能が停止する場合がありますのでご注意ください。

⑤ リハーサル機能を停止、またはメモリーがいっぱいになってしまった場合は、◉ボタンを一度押します。

⑥ 画面表示が<D1 15>の場合、リハーサル機能を開始して15秒後に1回目のドロップアウトが確認されたことを示しています。◀▶ボタンを使用して画面を切り替えるとD2、D3……D6まで表示されます【図6】。

※時間は全て秒数で表示されます。<D5 314>の表示は5回目のドロップアウトが5分14秒後だったことを示します。

⑦ 最後のドロップアウト表示の次は、<MIN RF>表示と画面左のRF信号レベルメーターが同時に点灯します。【図7】のように<MIN RF>と表示されながら画面左のRF信号レベルメーターが全く表示されない場合は、RF(電波)信号が完全にドロップアウトした状態を示します。また、RF信号レベルメーターが−90を示している場合はリハーサル機能動作中の最小のRF信号受信強度が−90dBだったことを示します。

⑧ もう一度▶ボタンを押すと<MAX AF>が表示されます。【図8】の場合はリハーサル機能動作中の最大信号レベルが0dBだった事を表します。もう一度▶ボタンを押すと<EXIT>が表示され、◉ボタンを押すとリハーサル機能を終了します。

【図1】

【図2】

【図3】

【図4】

【図5】

【図6】

【図7】

【図8】

スケルチ設定 <SQL>

受信機の受信感度を調整します。工場出荷時は−100dBに設定されています。どうしても必要な場合以外は設定を変更しないことをお勧めします。

※スケルチ値は−100dBに近いほど受信感度が良くなりますが不要な近接電波も拾いやすくなり、比例してノイズ成分が増加します。反対にスケルチ値が−80dBに近くなると近接する周波数を拾いにくくなるためノイズ成分は減少しますが、不安定な電波状況下では受信感度が大幅に落ちます。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<⑤EXTRA>を選択し、●ボタンで決定します。

② ◀▶ボタンでサブメニューから<SQL>を選択し、●ボタンで決定します。

③ 設定されているスケルチ値が表示されますので、◀▶ボタンで値を変更し、●ボタンで決定します。

④ <SAVE-Y>が表示されますので、●ボタンで決定すると設定が保存されます。

※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<SAVE-N>を選択し●ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

パイロットトーン設定 <PILOT>

WMS470は、受信機が送信機からの信号を受信しているときだけ音声を出力するパイロットトーン機能を搭載しています。送信機は電波にトーン信号を載せて送信し、受信機はそのトーン信号が含まれている信号を受信したときだけ音声を出力することで、送信機の電源OFF時やミュート時に、他の機器の影響によるノイズが出力されることを防ぎます。パイロットトーンのON/OFFの設定方法は以下の通りです。クリアな音質を確保するため、ONで使用することをお勧めします。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<⑤EXTRA>を選択し、●ボタンで決定します。

② ◀▶ボタンでサブメニューから<PILOT>を選択し、●ボタンで決定します。

③ ◀▶ボタンでパイロットトーンのON<PT ON>、OFF<PT OFF>を選択し、●ボタンで決定します。

④ <SAVE-Y>が表示されますので、●ボタンで決定すると設定が保存されます。

※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<SAVE-N>を選択し●ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

初期化 <RESET>

受信機を初期化して工場出荷時の状態に戻します。初期化の手順は以下の通りです。

※初期化すると、受信機の名称や各機能の設定もリセットされますので、ご注意ください。

① ◀▶ボタンでメインメニューから<⑤EXTRA>を選択し、●ボタンで決定します。

② ◀▶ボタンでサブメニューから<RESET>を選択し、●ボタンで決定します。

③ <START>が表示されますので、●ボタンで決定すると初期化が実行されます。

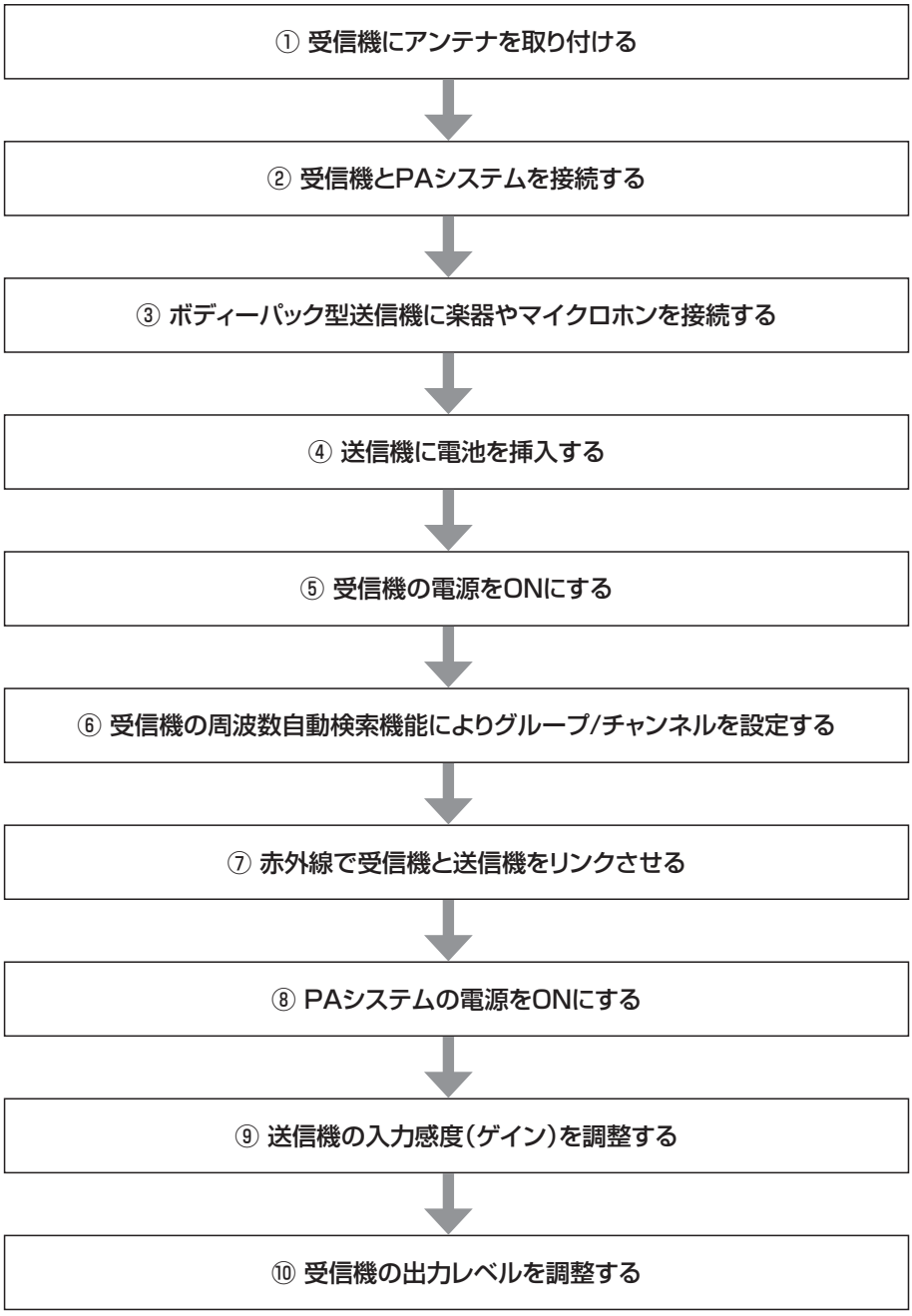
※<START>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<EXIT>を選択し●ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

システム情報の確認 <INFO>

システム情報を確認できます。通常は使用しません。

セットアップ

ここでは、WMS470のセットアップの方法を記載します。大きな流れは以下の通りです。次頁に各項目の詳細を記載します。

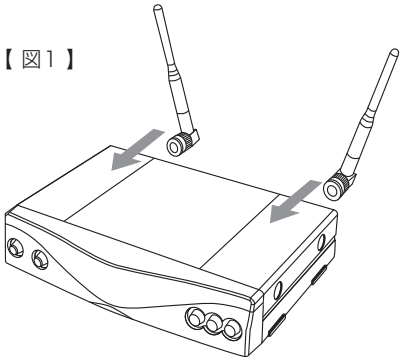


① 受信機にアンテナを取り付ける

受信機背面パネルのアンテナ入力端子に、付属の1/4波長アンテナを接続します【図1】。

※アンテナは、オプションのアクセサリーを使用することで受信機前面や受信機から離れた場所にも設置できます。また、ブースターや指向性／無指向性アンテナも用意しており、広い会場でも極めて安定した運用が可能です。

【 図1 】

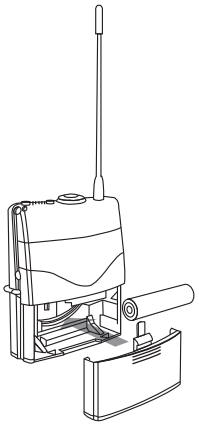


② 受信機とPAシステムを接続する

受信機の出力レベルコントロールつまみを左に回し切りにして、その後出力端子と外部機器を接続します。ミキサー等と接続する場合はバランス出力端子を、ギターアンプ等と接続する場合はアンバランス出力端子を使用してください。

※出力レベルコントロールつまみは、誤操作防止のため押し込み式になっています。調整するときは、1度押して前に出してください。

【 図2 】

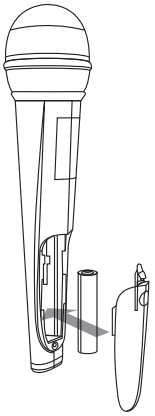


③ ボディーパック型送信機に楽器やマイクロホンを接続する

楽器を接続する場合は、楽器用接続ケーブルを使用します。ケーブルのフォーンプラグを楽器に接続し、もう一方をボディーパック型送信機の入力端子に接続してください。また、オプションのマイクロホンを接続する場合は、AKGのワイヤレスシステムに対応したものをお使いください。

ボディーパック型送信機の入力端子のピン配列

ピン1：グラウンド
ピン2：オーディオ
ピン3：電源供給（4.5V）



⚠注意 • ボディーパック型送信機を他のメーカーのマイクロホンと組み合わせて使用した場合、動作の保障はできません。また、その場合に発生した故障は保証の対象外となります。

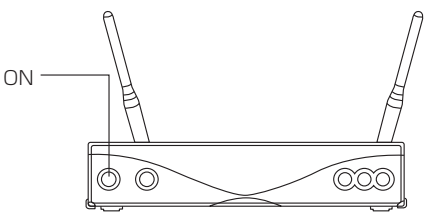
④ 送信機に電池を挿入する。

1）送信機の電池カバーを外します。

2）本体に記載してある表示に従って、電池を電池収納部に挿入します。極性の向きに注意してください。

3）電池カバーを取り付けます【図2】。

【 図3 】



⑤ 受信機の電源をONにする

1）付属の電源アダプターの一方を受信機の電源入力端子に接続します（7ページ参照）。

2）電源アダプターのもう一方を電源コンセントに接続します。

3）受信機の電源ON/OFFスイッチを押して電源をONにします【図3】。

⑥ 受信機の周波数自動検索機能によりグループ/チャンネルを設定する

1）受信機の◉ボタンを長押ししてロックモードを解除します（10ページ参照）。

2）会場内の電波をモニターして空いているグループ/チャンネルを検出する「周波数自動検索機能」を有効にするため、◀▶ボタンを押して液晶画面に<AUTO>の文字を表示させます。表示させたら◉ボタンを押して選択してください【図4】。

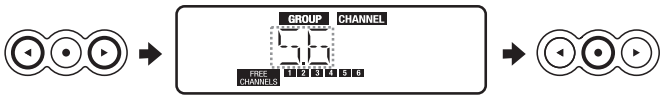
【図4】

3）液晶画面の中央部にグループ名、下部にそのグループで現在同時に使用できるチャンネルのチャンネル番号が表示されます。グループを変更する場合は、◀▶ボタンを押して変更したいグループ名を表示させます。表示させたら◉ボタンを押して選択してください【図5】。

※各グループで同時に使用できるチャンネル数は最大4～6ですが、周囲の電波環境により減少することがあります。複数のチャンネルを同時に運用したい場合は、液晶画面下部のチャンネル番号を確認して、使用できるチャンネル数が多いグループを選択してください。

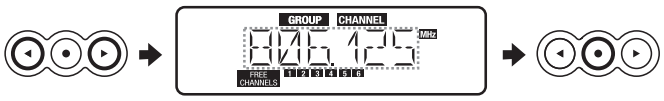
※グループ名、チャンネル番号は、AKG独自の周波数表示です（14ページ参照）。

【図5】



4）液晶画面の中央部に、選択したグループで使用できるチャンネルのうちの一番チャンネル番号の小さいチャンネルの周波数が表示されます。チャンネルを変更する場合は、◀▶ボタンを押して変更したいチャンネルを表示させます。表示させたら◉ボタンを押して選択してください【図6】。

【図6】



5）<SAVE-Y>が表示されますので、◉ボタンで決定すると設定が保存されます【図7】。液晶画面の表示が、赤外線が送信可能な状態になったことを知らせる<PRG IR>に変わりますので、次の⑦に進んでください。

※<SAVE-Y>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<SAVE-N>を選択し◉ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

※<PRG IR>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<EXIT>を選択し◉ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

【図7】

⑦ 赤外線で受信機と送信機をリンクさせる

1）ハンドヘルド型送信機のスライドスイッチを「MUTE/PRG」の位置にして、受信機から送られてくる赤外線を受信可能な状態にします。

2）受信機の液晶画面に<PRG IR>が表示されていることを確認し、送信機の赤外線ポートを受信機の赤外線ポートと近づけて、受信機の◉ボタンを押して赤外線リンクを開始します【図8】【図9】。

※<PRG IR>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<EXIT>を選択し◉ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。
※赤外線の送信範囲は上下左右10度以内、距離は20cm以内です。

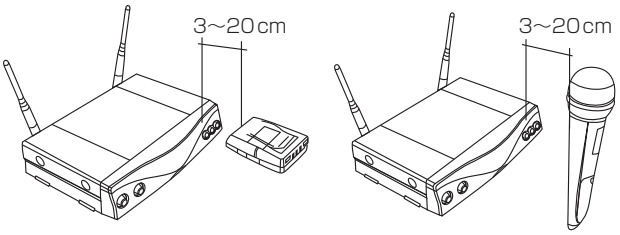
3）赤外線リンクが正常に行われれば液晶画面に<IR OK>と表示されます。◉ボタンを押してセットアップを完了させてください【図10】。赤外線リンクが正常に行われなかった場合は液晶画面に<IR ERR>と表示されます。再度赤外線リンクを行う場合は受信機の◉ボタンを押して<RETRY>を表示させて、もう一度◉ボタンを押してください【図11】。

※<RETRY>が表示されている状態から、◀▶ボタンで<EXIT>を選択し◉ボタンで決定すると作業がキャンセルされます。

4）送信機のスライドスイッチを「ON」の位置にすると、送信機から受信機に信号が送信されます。

※受信機がRF信号を十分なレベルで受信できている場合はRF OK LEDが点灯し、液晶画面左のRF信号レベルメーターに信号レベルが表示されます。
※受信機がAF（音声）信号を検知できている場合はAF OK LEDが点灯し、液晶画面右のAF信号レベルメーターに信号レベルが表示されます。

【図8】



【図9】

【図10】

【図11】

⑧ PAシステムの電源をONにする

接続されているPAシステムの電源をONにして、音が出る状態にします。

⑨ 送信機の入力感度（ゲイン）を調整する

受信機のAF CLIP LEDを確認しながら、マイクロホンに向かって声を出す、もしくは楽器を演奏します。AF CLIP LEDがピーク時にのみ点灯するのであれば問題はありませんが、頻繁に点灯する場合は送信機の入力感度を下げてください。

※ハンドヘルド型送信機の入力感度は受信機で（13ページ参照）、ボディーパック型送信機の入力感度は電池ボックス内のゲインコントロールつまみで（9ページ参照）調整します。

⑩ 受信機の出力レベルを調整する

受信機の出力レベルコントロールつまみを使用して出力端子から出力される信号の出力レベルを調整します。

トラブルシューティング

問題　音が出ない

原因	対策
電源アダプターが受信機の電源入力端子やコンセントにしっかり接続されていない。	電源アダプターを受信機やコンセントにしっかり接続します。
受信機の電源スイッチがOFFになっている。	POWERスイッチを押して、電源をONにします。
受信機がミキサーやパワーアンプに接続されていない。	受信機をミキサーやパワーアンプに接続します。
マイクロホンや楽器が接続されていない(ボディーパック型送信機の場合)。	マイクロホンや楽器を接続します。
送信機と受信機の設定周波数が異なる。	赤外線リンク機能を使って周波数を一致させます。
送信機の電源がOFFまたはMUTEになっている。	送信機の電源をONにします。
送信機の乾電池が正しく装着されていない。	乾電池は極性に気をつけて正しく装着します。
送信機の電池残量が0になっている。	新しい乾電池もしくは充電池に取り替えます。
送信機と受信機の距離が離れすぎている、またはスケルチ設定が高すぎる。	受信機と送信機を近づけます。またスケルチ設定は低めに設定します。
送信機と受信機の間に障害物がある。	障害物をどかします。
送信機と受信機の距離が遠すぎる。	受信機が見える位置に移動します。
受信機の近くに金属がある。	金属の物体を移動するか、受信機を移動します。

問題　ノイズが出る

アンテナの角度、位置が悪い。	受信機またはアンテナを他の場所に移動します。
他のワイヤレスシステムやTV、ラジオなど他の電波による干渉を受けている。	原因と思われる電波を発している機器をOFFにするか、使用場所を変更します。

問題　音が歪む

入力ゲイン設定が高すぎるまたは低すぎる。	入力ゲインを音源にあわせて適切に設定します。

問題　音声信号が途切れる(ドロップアウト)

アンテナの角度、位置が悪い。	受信機またはアンテナを他の場所に移動します。

以下は、受信機および送信機の液晶画面に表示される警告表示とその説明です。問題が発生した場合は、以下の内容を参考にして対処してください。問題が解決しない場合はお買い上げの店舗にご相談ください。

受信機の警告表示

警告表示	警告内容	対策
ERR.>SYS<	周波数設定を変更不可。	受信機の電源を一度OFFにし、10秒後にONにします。
ERR.>PRE<	周波数設定[グループ/周波数]の選択間違い。	エラーが発生しない周波数設定[グループ/周波数]を選択します。
TXBand	送信機の周波数帯域が受信機の周波数帯域と一致しない。 RF出力が高すぎる/低すぎる。	受信機と同じ周波数にします。 RF出力を調整します。

受信機と送信機の警告表示

警告表示	警告内容	対策
ERR.>USR<	最終の設定が読み込めない。	周波数およびスケルチ値を再設定します。
ERR.>RF<	PLLエラー。受信機が選択した周波数に設定できない。	別の周波数に設定します。
Err.>IR<	赤外線通信が失敗した。	送信機と受信機の赤外線ポートをまっすぐ、5センチ以内に置いて再度試します。

送信機の警告表示

警告表示	警告内容	対策
>-h<	送信機が乾電池もしくは充電池のいずれかを判別できない。または 充電中に送信機の電源がONになっている。	一度乾電池を取り外し、5秒後にもう一度装着します。または送信機を充電器から外して電源をOFFにしたあと、再度充電します。
>ChArGE< (充電池のみ)	充電が不十分。	充電器[CU400]を使って充電、または使用中の充電池を取り外し、新しい乾電池もしくは確実に充電された充電池に交換します。

仕様

システム性能

電波形式	F3E
搬送波周波数	806.125～809.750MHz
到達距離	約70m ※見通しのよい屋外で使用した場合。※使用環境により異なる。
空中線電力	10mW
THD	0.3%以下
周波数特性	35Hz～20kHz(±3dB) ※システム全体の帯域幅はマイクロホンにより変動。

受信機(SR470)

バランス出力	端子	XLR
	インピーダンス	670Ω
	最大出力レベル	9dBu
	ゲイン調整	0dB(出力レベル「0」設定時)、−30dB(出力レベル「−30」設定時)
アンバランス出力	端子	標準フォーン(2P)
	インピーダンス	670Ω
アンテナ入力	端子	BNC
	インピーダンス	50Ω
SN比	120dB(Aウェイト)	
電源	DC12V(0.5A)、ACアダプター(AC100V、50/60Hz)	
寸法(W×H×D)	200×43×134mm(除突起部)	
質量	750g	

ハンドヘルド型送信機(HT470 C5、HT470 D5)

アンテナ形式	内蔵式アンテナ
ゲイン調整	0dB(GAIN「LOW」設定時)、15.5dB(GAIN「HIGH」設定時)
電源	単3形アルカリ乾電池×1 または 単3形ニッケル水素充電池×1 または 単3形リチウム乾電池×1
電池寿命	アルカリ乾電池：約7時間、ニッケル水素充電池：約8時間、リチウム乾電池：約14時間 ※使用環境によって異なる。
寸法(φ×全長)	51×237mm
質量	235g(除電池)

ボディーパック型送信機(PT 470)

アンテナ形式	1/4波長ホイップアンテナ
入力端子	ミニXLR 3ピン(オス)
最大入力レベル	12dBu
ゲイン調整範囲	0～37dB
電源	単3形アルカリ乾電池×1 または 単3形ニッケル水素充電池×1 または 単3形リチウム乾電池×1
電池寿命	アルカリ乾電池：約7時間、ニッケル水素充電池：約8時間、リチウム乾電池：約14時間 ※使用環境によって異なる。
寸法(W×H×D)	60×72×22mm(除突起部)
質量	70g(除電池)

AKG®
by HARMAN

この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

HIBINO

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL：03-5783-3110　FAX：03-5783-3111

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL：06-6339-3890　FAX：06-6339-3891

福岡ブランチ
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL：092-611-5500　FAX：092-611-5509

北海道オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL：011-640-6770　FAX：011-640-6776

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL：052-589-2712　FAX：052-589-2719

http://www.hibino.co.jp/
E-mail:proaudiosales@hibino.co.jp